

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 anto		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日 ~ 2025年 2月 21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日 ~ 2025年 2月 21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、作業療法士、発達支援アドバイザーの方から専門的な支援、指導方法を直接学び、すぐに取り入れ、日々の療育にて実践している。	日頃の支援の中で生じる疑問や問題を、専門性豊かな理学療法士（月2階）、作業療法士（月2回）、発達支援アドバイザーの方（年数回）に相談し、支援方法を学んでいる。改善点にはすぐに着手し、日々の支援に取り入れている。	専門的な支援方法の共有はできているが、指導員によって各々受け止め方や理解の度合いが違う。今後さらに支援の充実を図るためには、支援会議はもちろん、日々の振り返りの中で意見を伝え合い、相互理解を深めチームワークを高めていく、さらに個々の関心を深め、学びにつなげられるようにしていきたい。
2	専門的な支援の内容を日々の療育に取り入れているので、お子さんの変化が早い。	疑問に感じた事を言葉に出して、その都度話し合うように心がけている。今年の11月から、支援内容を記録できるソフトを導入した。3月からは1日の終わりに振り返りをしながら、その内容を直接PCへ入力する事を試みている。翌朝のミーティングではPCに入力した記録を開き、振り返りながら、お子さんの乗降を踏まえた支援内容及び一日の流れを確認している。	指導員同士、支援に関することは何でも言えて、話し合える雰囲気づくりを心掛ける。
3	関係機関との連携に力を入れている。指導員はもちろん、お子さんも、誰がいつ見学に来られても大丈夫な程、そのことに慣れている。	見学の方がいらしても、通常と変わらない療育を行っている。	日頃の療育の中で、どんな事を大切に、どんな療育を行っているのか等、antoで行っている支援について誰もがいつでも説明できるような専門家集団となれるよう、日頃から各々が言語化することを意識していく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長時間療育を行っているので、全体での振り返りをゆっくり行う事が難しい。	勤務の時間帯が分かれている為、ゆっくり振り返りをしたり、話し合ったり、全員が揃って話をする体制が取れない。	日々の療育の中で、お子さんの支援にあたりながら「今の〇〇はこうしたらどうか？」など、積極液に意見を交わして、限られた時間内にできるだけコミュニケーションを取っていきましょうという意識を高める。それが支援の質を高めていく事に繋がるという事を各々が理解できるようにしていく。
2	併行利用のお子さんは、お休みすると積み重ねができない。	週一回の利用のお子さんに対して支援を行う時に、どうしてもアプローチが限られてしまう。	連絡帳に今日の取り組みを記入するだけでなく、ご家庭でもやって頂きたい支援があれば、それについて分かりやすく記入してお伝えする工夫をする。また、いつでも見学に来てくださいとおすすめて、実際の支援の様子を見てご理解頂けるようにする。
3	ホームページの更新、SNS発信ができない。	指導員がその分野に関しての専門性に欠ける。個人情報の取り扱いが難しく、写真を顔出ししても構わないというお子さんが非常に少ないため、余計にハードルが高く感じてしまう。	ホームページでお伝え出来ない分、antoを利用しているお子さんへは個々に写真をお渡しして、様子をお伝えしている。しかしこのままだと外部の方への発信はできないままになってしまうため、発信方法やその頻度について、これならできそうだというラインを会議で話し合い、対応策を決定したい。